

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591600261		
法人名	社会福祉法人 健仁会		
事業所名	グループホーム彩花		
所在地	山陽小野田市大字厚狭字植生田498番1		
自己評価作成日	平成31年2月25日	評価結果市町受理日	令和 1年 7月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成31年3月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム彩花は、昨年3月に開設した2ユニットのグループホームです。玄関を入ると広い工房とレッドコードが配備されており、週1回理学療法士による機能訓練に参加されています。個別に機能判定や健康体操の指導もあり、職員も機能訓練のアドバイスを受け日々の生活の中で一人一人の今ある機能を維持するための運動を支援しています。併設の紫苑リハビリ内科クリニックや訪問看護ステーションと連携があり、医療面に対してもサポートが充実しています。職員は利用者様の生活歴や会話の中から想いを知ること努めており、設備を最大限に活かしながら趣味や健康に対する希望を叶える取り組みをしています。併設の「カフェひまり」では本格的なコース料理や手作りスイーツを食べることができ、ご家族と特別な時間を過ごして頂いています。春には満開の桜に囲まれ、カフェの庭は散歩コースになっています。花壇には季節の野菜を植え、ご自宅におられた時のように育てる楽しみも感じて頂いています。運営推進会議参加者の方から多くのボランティアの紹介があり、絵手紙や革細工でキーホルダー・小物入れやボトルフラワーなどの物作りを楽しんでおられます。12月の初めての家族会では、出来上がったご自慢の作品の展示会を開催し、ご家族にも好評でした。総勢50名を超える参加者となりました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は利用者の生活歴やこれまでの暮らし方、趣味、習慣、馴染みの人や場所の把握を丁寧にされ、利用者のその人らしい暮らしを継続できるように支援しておられます。日々の関わりの中で、利用者の発した言葉「～したい」に耳を傾けられ、「こうありがたい」と願う気持ちを大切にされ、利用者の思いや願いが継続できるように介護計画に活かしておられます。趣味や特技、好きなことが継続できるよう、毎日の楽しみごとや活躍できる場面を多くつくり、短歌や俳句、川柳をつくる「文芸の会」や「絵手紙教室」、「お買い物ツアー」など、利用者が主体的に参加したくなるようなネーミングを工夫されています。利用者がこれまで大切にされてきた馴染みの人や場所(自宅、神社、寺、美容院、商店、駅等)の地図を大判用紙に描いて、居室に掲示しておられます。利用者にとって、馴染みの場所とのつながりが一目で分かるように立体的につくっておられ、利用者が安心して暮らせるように工夫をされています。利用者やその家族の健康志向に応じて、レッドコードを設置され、積極的にリハビリテーションに取り組んでおられます。理学療法士による、利用者一人ひとりの機能判定をされ、その指導をもとに、現状が維持できるように日常生活に活かされるとともに、個別の機能訓練の実施に取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>管理者・現任職員・新人職員が受ける接遇研修で理念を基にした教育を法人で実施しており、誰もが勉強できる環境があり参加している。朝礼や会議の時に理念、ケアの指針を唱和することで利用者様との関わり方を常に意識し、利用者様がくつろぐことができ心地よく過ごせるよう寄り添いをしている。</p>	<p>「皆にやさしく、共に楽しく、地域の中でいつまでも自分らしく生活できる」という、地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、事業所内に掲示している。管理者と職員は朝礼時やユニット会議時に、ケアの4つの柱(横に座る、その人を知る、嘘をつかない、ゆっくりと穏やかに)を唱和し、共有している。日々のケア場面において4つのケアの柱を常に意識しているかを話し合い、実践につなげている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の方が夏祭りのお手伝いや草笛・ハーモニカ演奏・演舞・ボトルフラワー作り等ボランティアでとして来て下さっている。近隣の神社で開催される子供相撲や納涼祭などの案内もあり利用者様と出かける機会がある。近隣自治会の方も見学に来られる機会があり、利用者様の生活の様子を見て頂くことで交流の機会を作っている。</p>	<p>事業所は自治会に加入し、3つの近隣自治会に事業所便りを配布している。利用者は、御大師様参りやどんど焼き、神社の相撲大会、秋の天神祭り、厚陽文化祭、納涼祭りなど、地域の行事に職員と一緒に出かけ交流している。事業所主催の夏祭りには家族や地域から50人以上の参加があり、地域の方がソーマン流しを用意して、楽しい交流となっている。ボランティア(ハーモニカ、草笛演奏、謡曲、銭太鼓、ボトルフラワーづくり、小物づくり)で来訪の人や、拠点の「カフェひまり」を利用する地域の人と交流している。散歩時やポスト利用時、近所のスーパーマーケットで買物時、移動図書館の利用時に会う地域の人と挨拶を交わし、花の差し入れがあるなど、日常的に交流している。高校生のインターシップや専門学校生の実習を受け入れている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や入居希望のご家族へ向けて、日々の支援の様子をありのまま見て頂いている。認知症に対しての不安や関わり方に悩みを持っておられる方からの質問には、丁寧に分かりやすく説明をしている。地域アンケートで要望が多い内容を専門職員が講師となり年1回文化ホールで生活改善リハビリセミナーを法人が開催している。職員は自治会、婦人会、民生委員等の方々へご案内し多くの方の参加がある。1階には地域の方も利用できるカフェがあり、垣根のない施設づくりをしている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	1月の彩花勉強会で外部評価と自己評価について皆が学んだことで、介護経験のある職員は支援について見直しの機会になった。新任職員からは項目の問いに理解が難しいと質問があり管理者やリーダーが1対1で答えた。利用者様が一瞬一瞬でも楽しい嬉しいという感情をもって頂けるような行事や趣味が続けられる支援に取り組んでいる。	管理者は、月1回の合同会議の中で、評価の意義を説明し、自己評価をするための用紙を全員に配布して記録してもらい、管理者、リーダーが取りまとめている。自己評価は職員にとって、日々のケアの振り返りとなり、日常のケア(排泄、食事、入浴、外出等)を丁寧にやることや、ケアの4つの柱を意識することが大切であることを確認できている。今後、内部研修において、項目の一つひとつを深めていくことなど、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は看護小規模多機能と合同で開催しており、利用者様情報・月の行事計画(彩花暦)・彩花メールを資料として利用者様の生活状況を報告し、意見交換している。利用者様の楽しみごとが増えればと、ボランティアの方を紹介して下さった。参加者の元消防署職員の方からは火災訓練前に消火器の使用方法や心肺蘇生からAED使用までの流れの指導の申し入れがあり、職員を交えて教わった。外部評価・自己評価について報告している。	会議は、利用者、家族、3地区の自治会長、民生委員(消費者モニター)、宮司、第三者委員、市担当課、地域包括支援センター職員、同業者の参加を得て、2カ月に1回、併設の看護小規模多機能と合同で開催している。利用者の状況や行事予定、活動状況、インシデント・アクシデント報告(2月には年間の集計分析を報告)、職員の研修報告、自己評価報告の後、話し合いをしている。会議では参加者に必ず発言をしてもらうよう、司会進行の工夫や食事会を行って参加者間の親睦と交流を図るなどの工夫をしている。参加者からは、地域のボランティアの紹介や行事への協力等の意見があり、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には介護保険課や地域包括支援センターの職員の参加があり、利用者様の状況や取り組みを報告することでアドバイスを受けている。参加者の方から市内の状況などの質問があった時には答えて頂いている。地域包括支援センター主催の認知症支援ネットワーク会議に参加しており、徘徊・離苑時の対応について意見交換している。	市担当者とは運営推進会議時や電話、介護保険申請時、会議時に直接出向くなどして、情報交換や運営上の疑義、認知症カフェについて話し合う機会もあり、協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や認知症支援ネットワーク会議時に情報交換を行い、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の指針を見直し、彩花勉強会で身体拘束スピーチロック・ドラックロック・フィジカルロックの意味をしっかり理解している。身体拘束適正化検討会議では看護小規模多機能と合同で会議をしており、お互いの利用者様を把握し協力し合える体制作りをしている。声のかけ方や関わり方等を話し合い、利用者様の安全を確保しながら自由な生活が送れるような支援にみんなで取り組んでいる。	職員は「身体拘束の適正化に関する指針」を基に内部研修を実施している他、3ヶ月毎に実施している「身体拘束適正化検討会議」の事例検討や、拠点の看護小規模多機能施設と合同で1ヶ月に1回、実施している「リスクマネジメント会議」で学び、身体拘束の内容と弊害について正しく理解している。年1回、正しい言葉かけについてのアンケートの実施や言葉の言い換え等、スピーチロックについて学んでいる。各ユニットの玄関は2階にあり、自由に出入りができる。外に出かける場合はエレベーターを利用するようになっており、外出したい利用者があれば職員が一緒に出かけて、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックが気になる場合は管理者とリーダーが指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は外部講師による高齢者虐待防止関連法についての勉強会に参加し、衛生委員として職員の健康状態の把握に努めストレスや悩みを抱え込まないように話を聞く機会をつくっている。彩花勉強会では職員が講師となり虐待とはどのようなことなのか具体的に例をあげ話し合っており、管理者はアドバイスをしている。利用者様の尊厳を大切に言葉遣いに取り組んでいる。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	彩花勉強会で職員が講師となり成年後見制度について学んでいる。参加できなかった職員へは、報告書と資料を回覧しており誰もが制度について学べるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者・リーダーがしており、ご家族の不安や質問を受けながら時間をかけて理解・納得されるまで説明している。介護保険の改定についても書面で説明をしております。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に重要事項説明書にて要望・相談窓口、第三者委員の設置について説明している。面会時や電話でご家族から要望や相談を受けている。対策や対応を要望書や連絡帳で職員全員が知るようにしており、日々のケアに活かしている。要望を書きやすいように、ご家族へ無記名のアンケートを実施しており、内容について皆で考えご家族へ回答をしている。	要望・相談窓口と受付体制、公的機関の窓口、第三者委員を明示し、処理手続きを定めて、契約時に家族に説明をしている。面会時や運営推進会議参加時、年2回の家族会、行事参加時、手紙等で家族からの意見や要望を聞いている他、11月には不安に思ったことについて無記名のアンケート(ケアプランの作成、職員の対応、健康管理、くつろげたかなど)を実施して聞いている。要望は要望書と連絡帳に記録して職員間で共有している。職員の名前と顔が一致するように明示してほしいという意見があり、ユニットの入口のボードに顔写真と名前を掲示しているなど、反映している。個別ケアに関する要望は直ぐに対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	開設時、設計の段階から職員の意見を聞いてもらっており、浴室暖房やスライドバー・立ち上がり時のバーの位置まで一緒に決め、利用者様が安全な生活が送れる工夫が出来る。月2回のユニット会議で挙げた意見や提案は管理者から代表へ伝え改善策を検討している。	管理者は、月2回のユニット会議時やカンファレンス、係り業務を通して、職員の意見や提案を聞いている。ユニットリーダーを介して意見が挙がることもある。職員からは利用者の夜の入浴希望に応えたいことや研修希望、勤務体制の組換え、介護休暇の取得等の意見があり、代表者に上申して、運営に反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	シフト作成時には希望を聞いており、有休休暇で家族旅行に行くなどリフレッシュできる勤務体制を整えている。介護福祉士・社会福祉士・看護師の資格手当がつく。日頃は残業することなく定時に帰り、緊急・行事などの残業は手当がつき、職場環境は整っている。昨年10月には介護・看護職員の手当の見直しがあった。月1回の彩花勉強会では職員が順番に講師となることで理解を深めると共に自信に繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修などの情報提供があり、管理者が必要な研修を案内している。出勤扱いとし負担が少なく、今年度は実践者研修に1名受講した。実務者研修は法人が場所を提供しており受講しやすくなっている。新人職員にはプリセプターをつけ、介護技術・認知症ケア等の教育をしている。</p>	<p>外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。現在、実務者研修に1名参加している。受講後は研修報告書を回覧し、ユニット会議の場で伝達し、資料はいつでも閲覧できるようにして全員が共有している。法人研修は年間計画を立て、月1回、全体会議の後に接遇や応急手当等、担当委員により実施している。法人5か所のグループホーム合同の勉強会は、当事業所の管理者が担当者となって、時宜を得たテーマで実施し、参加した職員は研修記録に記録している。内部研修は年間計画を立て、毎月1回、管理者と職員が講師となって、成年後見制度や外部評価と自己評価、個人情報とプライバシー保護、重度化と看取りケア、インフルエンザ、ノロウイルス発生時の対応、身体的拘束排除に向けての取り組み、虐待防止、非常時の対応、感染症と食中毒、事故発生と対応、認知症ケアを実施している。新人職員は3日間の法人研修を終了後、日々の業務の中で管理者やリーダー、先輩職員の指導を受けて学べるように支援している。資格取得のために研修受講等の勤務調整をするなどの支援をしている。法人が実務者研修の場所を提供している。</p>	
15		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム地域ブロック会議に参加し施設見学もしている。地域との関わりや活動について意見交換などする機会があり、活動の参考になっている。勉強会や発表会の案内があり管理者や職員が参加しており、日々のサービスの取り組みの参考になっている。他グループホームから見学に来られている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学の機会をもうけており、入居利用者様の様子や居室を見て頂いている。利用者様と一緒に話しをして頂いたり、ゆっくりとお話を伺える場所でさりげなく不安や要望を伺っている。入居時には入居時情報などをしっかりと確認し、安心して過ごしていただけるよう関係づくりをしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	法人相談員が窓口になり施設サービスについて相談にのっている。入居前には見学や入居前カンファレンスをしており、管理者やリーダーと一緒に不安や要望を伺う機会をつくっている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時には、かかりつけ医・歯科・眼科・皮膚科などの受診状況や、行きつけの美容院等を伺い入居後の要望を伺っている。遠くにお住まいのご家族やお勤めで付き添えないご家族に代わって継続して通院介助が出来るように支援している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居前情報から利用者様の生活歴を知り、住む環境が変わっても得意なこと・お好きなことが続けていける声掛けや他利用者様と馴染みの関係が築けるように席などを工夫している。編み物が得意な利用者様とは横に座り一緒に編み物をし、分からない時には教えていただくなどお一人おひとりと共に過ごす時間を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	管理者やリーダー・担当者が窓口になり連絡を取り合っている。ご家族から相談や要望があった時には、要望書や連絡帳で職員皆が把握し対応に努めることで安心に繋げている。玄関ロビーには職員の写真入りのボードがあり名前を憶えて頂けるようにしている。面会時にはケース記録を見て頂きながら日々の様子をお知らせすることで想いを伺える環境を整えている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親族の方だけでなく今まで暮らしておられたご近所さんやお友達も面会に来て下さっている。来られた時にはゆっくり過ごして頂けるように居室やソファーにご案内している。職員と馴染みの店に買い物や外食に行ったり、ご家族と散歩や外出、自宅に戻れることもある。面会時間を決めていないので仕事帰りに立ち寄られることもある。	家族の面会や親戚の人、近所の人、習い事をしてた時の友人、同級生の来訪がある他、電話や手紙での交流を支援している。馴染みの商店での買物や地域の行事に出かけている。大判用紙に馴染みの場所(自宅、神社、寺、美容院、商店、駅等)や現在の位置を記した手づくりの地図をつくり、居室の壁面に掲示している。家族の協力を得て馴染みの美容院の利用、結婚式や法事への参加、墓参、外出、外食、一時帰宅、外泊等、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が座られる席は気の合う方と一緒にひとりでゆっくり・皆が見渡せる席などその方一人一人の想いに添っている。テーブルにお茶がこぼれたときはティッシュを取る方、拭く方にわかれ「大丈夫？」と仲の良い方同士で気遣う場面も見られる。コミュニケーションの難しい方には職員が横に付き利用者様同士の関わりの機会が持てるように支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や看取りで退居となられても年賀状などで近況の報告をし合っている。地域で出会った時にはこちらからご挨拶し、思い出話をすることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普通の会話の中から希望を伺っている。お部屋でゆっくり過ごしたい方もおられる為、無理強いないでおやつや食事の時などコミュニケーションがさりげなくとれるように声掛けをしている。寂しがり屋で誰かが傍にいないと不安になられる方にはお友達になられた方と一緒に席にしている。思いを伝えることが難しくなられた方には表情やしぐさから想いを汲み取り支援している。	入居時には法人の相談員から利用者情報を得て、アセスメントシートに身体状況や生活歴、趣味、習慣、好きな人、大切な人、本人、家族の意向、希望等を記録して思いの把握に努めている。日々の関わりの中での利用者の発した言葉「～したい」を聞いて、「こうありたい」と思う気持ちを大切に、表情や行動をケース記録に記録して、思いや意向の把握に努め、介護計画に活かしている。困難な場合は家族から情報を得たり、職員間で話し合っ本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前情報の生活歴やご家族から伺ったことが続けられるように支援している。字を書くことを得意とされる利用者様は毎日食事のメニューをボードに書いて下さり、編み物の得意な利用者様は毎日編み物が出来るように、毛糸がなくなったらご家族へお知らせしたり、一緒に買い物に行ったりしてお好きなことが続けられるように支援している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録には1日のご様子、生活記録にはバイタル・食事量・水分量・排泄・入浴・睡眠状況などを記録し一目で身体・精神状況が把握出来るようにしている。月2回のユニット会議で議題にあげ支援の方法を話し合っている。会議録は回覧し全員が把握できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の想いを一緒に過ごす中で拾い上げている。毎日、生活支援計画実施状況を記入し、月末に集計・評価などを行っている。カンファレンスにはご家族や管理者・介護支援専門員・理学療法士・担当介護職員によって、「なりたいたい自分になれるためには」を目標としてケアプランを作成している。	管理者と計画作成担当者、利用者を担当している職員が中心になって3ヶ月に1回、カンファレンスを開催し、本人の思いや家族の意向、主治医や看護師、職員、理学療法士の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。モニタリングは生活支援計画実施状況を毎日チェックし、1ヶ月毎、評価と課題としてまとめて、見直し、利用者が「こうありたい」と思っていることを続けることができるよう計画を見直している。利用者や家族の意向、利用者の状態に変化が生じた場合は、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様お一人お一人に担当者を決めることで、深く知ることにも努めている。知りえた事はケース記録や連絡帳、アセスメントに記入する事で次のケアプラン更新に活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1階のアトリエで絵手紙・革細工・ボトルフラワー等、ボランティアの方が来て下さり参加され毎月楽しみにされている。レッドコードスペースでは理学療法士によるレッドコード・法人職員による歌の会・文芸の会・ヨガ教室などが開催され、趣味などを楽しめるようにしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	8月に開催した夏祭りにはボランティアで地域の方がそうめん流しをして下さった。運営推進会議参加の方々から知り合いを紹介して頂き、銭太鼓・草笛・ハーモニカ演奏等、ボランティアで来て下さる方が増え利用者様の楽しみごととなっている。馴染みのスーパーや飲食店に出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前からのかかりつけ医・専門医にかかられている利用者様には受診時、ご様子とバイタルなどが記入された物をお渡し、安心して受診できるように支援している。ご家族が付き添えない時には、職員が付き添っている。</p>	<p>本人、家族の希望するかかりつけ医としている。協力医療機関がかかりつけ医の場合は2週間に1回の訪問診療がある他、定期の検査を実施している。かかりつけ医が協力医療機関でない場合と他科受診は家族の協力を得て受診支援をしている。結果は健康診断票に記録して職員間で共有し、家族にはその都度送付している。歯科は必要に応じて往診があり、歯科医師による口腔衛生管理をしている。薬剤師は処方書を分包して来訪し、与薬方法等の相談にのってもらっている。理学療法士による機能低下を防ぐための訓練と指導(レッドコードを利用)があり、指導計画に添って支援をしている。週1回、訪問看護師の来訪があり、利用者の健康管理や相談に対応している。24時間オンコール体制であり、訪問看護師や協力医療機関と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	
32		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>法人内のクリニックと医療連携があり、毎週火曜日に訪問看護がある。一週間前のご様子を比べて体調や変化のあったことなどを報告し、アドバイスを受けている。体調不良があった時には医師・訪問看護師に病状を報告し、連携を図ってクリニックを受診している。</p>		
33		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院された時には看護・介護情報提供書を作成し、普段のご様子や最終入浴、排便などもわかるようにしている。職員は見舞いに行くことで利用者様の様子を把握している。病院と法人の地域連携室が連絡を綿密に取り合い、早期退院に向けて取り組んでいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師・看護師・管理者がご家族と何度も話し合いの場を持ち、ご意向を伺うようにしている。ご意向はケアプランに取り入れ、毎日のケアにつなげている。開設からおられた利用者様が看取りとなられた時は、職員から不安の声があったため、看取りの指針やエンゼルケアなどの勉強会を行った。亡くなられた後、その日に手順などを反芻し、職員同士で確認しあった。	「看取りの指針」を基に、重度化や終末期に事業所ができることを契約時に家族に説明をして、同意書を交わしている。実際に重度化した場合は早い段階から家族と話し合い、意向に添って、医師や看護師、職員が話し合い、医療機関や他施設への移設も含めてチームで支援に取り組んでいる。家族の希望に添えるように、看取りについて内部研修で取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故発生時の対応、事故発生予防マニュアルがあり、彩花勉強会で対応の手順を確認している。法人の応急手当研修もある。普通救命講習も受講している。緊急時持ち出しファイルを作成しており、救急車を呼ぶ前にする事、準備するもの、急変時連絡先などがわかるようにしている。	事例が生じた場合は報告書に原因と対応、家族への連絡、今後の対策を記録して回覧し、月に1回、インシデント事例を、再度、予防や対応策を検討して、利用者一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。職員は消防署主催の救急救命法とAEDの使用法の研修を受講している。内部研修で、事故発生予防マニュアルについてや非常時の対応、感染症やノロウイルスについて、誤嚥や窒息についての訓練を実施して、応急手当や初期対応の実践力が身につくように取り組んでいる。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回訓練を行っている。去年はグループホーム火災発生を想定、消防と連携し、通報、避難、けが人をシートで救急車へ運ぶ一連の手順を実践した。消防士から避難時の注意点や消火器の使用方を教えてもらった。地域の方々との緊急連絡網を作成し、協力体制も整えている。	年2回、1回は消防署の協力を得て、昼夜の火災を想定した通報、避難、避難経路の確認、消火器の使い方の訓練を自治会、第三者委員、利用者も参加して実施している。「火災発生時対応マニュアル(日中と夜間)」を作成している。数年前に法人施設で風水害で浸水した経験があることから、法人の施設間での協力体制や明るい内に避難することを徹底するなど、利用者が安全に避難できるように職員は訓練に取り組んでいる。緊急連絡網に職員、家族、運営推進会議メンバー、自治会等、地域の人も入っており、地域との協力体制を築いている。非常用食品は備蓄できている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	彩花勉強会でプライバシー保護について学んでいる。法人の接遇研修で繰り返し言葉使いや接する態度など学ぶ機会がある。トイレや入浴の声掛け、入室時にはノックをするなどプライバシーを尊重した姿勢を心がけている。	職員は法人の接遇研修や内部研修でプライバシー保護と個人情報の取り扱いを学んでいるとともに、管理者とリーダーからの「人生の先輩として教わる気持ちを忘れないように」と言う指導をとおして、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人情報の取り扱いに留意し、守秘義務は遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から利用者様との会話を大切にし、声をかけやすい雰囲気づくりをしている。～しましよではなく、～してみませんか、利用者様が選択できる声かけに心がけている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝が苦手な利用者様もおられる。ご自分のペースで起床出来るように職員は声かけをしている。食事の時間がずれた時には温め直してお出ししている。お好きな時に居室に戻り横になられ、ゆっくりされる方もおられる。居室で仲の良い方同士でお話をしてくつろがれることもある。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には好みの服を伺い来て頂いている。お出かけの時にはお洒落をして出かけて頂いている。男性利用者様の髭剃りも声掛けや介助でしている。ご家族が馴染みの美容院へ連れて行って下さっている利用者様もおられる。移動美容室がありパーマやカット、髭剃りなど要望に沿って申し込みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>おせち、お雛様、そうめん流し、敬老会、クリスマスなど季節を感じる事ができる献立となっている。毎月1日は赤飯と一緒にメッセージカードも届いている。料理に合わせた食器でお出しすることで目でも楽しんで頂いている。毎食、ワゴンを押して職員と食事をとりに1階まで行って下さる利用者様がおられる。下膳や座ってできるお膳拭きを自分の役割として、して下さっている。</p>	<p>食事は法人の配食を利用し、ご飯は事業所で炊いている。法人栄養士による献立で、利用者の好みに合わせて食品交換をし、食べやすいように形態の工夫や自助具を使うなどして、一人で食べる事ができるようにしている。茶碗と箸、湯呑はこれまで使っていた馴染みの物を使用している。季節感を大切に12月が替わったことが確認できるように、毎月1日には赤飯とメッセージカードが厨房から届くようになっている。利用者は、食事のワゴンの受け取りと返却、食事の挨拶、盛り付け、エプロンをかけて食器洗い、おしぼりを丸めている他、おやつづくりでは、混ぜる、丸める、焼く、ハンドミキサーの使用など、できることを職員と一緒にしている。静かにBGMが流れ、利用者と職員は同じテーブルについて食材の話をしながら、同じものを食べている。おやつづくり(チーズケーキ、きんつば、よもぎ餅、おはぎ、ホットケーキ、鈴ケーキ、月見団子)や、ケーキの付く誕生日、季節行事食(おせち料理、節句の寿司、ソーメン流し、敬老会の豪華な折詰め、クリスマス、年越しそば、雑煮)、干し柿づくり、外食、家族の協力を得ての外食など、食事を楽しむことができるように支援している。</p>	
42		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>管理栄養士がたてた献立が毎食届き、一口大・刻み・とろみ・ミキサー食にして食べて頂きやすい状態でお出ししている。食事量・水分量をチェックし摂取量の減少がみられたら看護師や管理栄養士の指示を受けながら、高カロリー食品をお出ししている。お粥を好まれる利用者様もおられる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力医療機関があり、定期的に歯科医師・歯科衛生士が往診に来て口腔ケアや必要な治療を受けておられる。その時に職員に向けて口腔ケアの指導もある。夕食後は義歯を預かり洗浄している。歯磨きやうがいが出来なくなられた利用者様にはスポンジブラシやガーゼで口腔内をきれいにしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ケース記録に排泄の時間を書き込んでいる。トイレに行かれる時間を把握することで声掛け・誘導を行っている。介助バーも可動式になったものになっており、利用者様がしっかり持って立ち上がって下さっている。便座に座って出来ることを大切にしており、立ち上がりが難しくなられた利用者様も2人介助している。	ケース記録の排泄状況から、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者に合わせて言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。パットやおむつを使用する場合は家族や職員間で話し合い、その根拠をはっきりさせてから使用している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、ラジオ体操や廊下の往復運動、一階のレッドコードやリハビリ職員が行う健康体操などで適度な運動をすることで便秘予防に努めている。毎日、牛乳を飲んで頂けるようにしている。便秘気味の方には医師の指示のもと内服薬でコントロールしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様のご希望を伺いながら入浴支援をしている。仲の良い方と誘い合って一緒に入られる利用者様がおられる。しょうぶ湯やゆず湯で季節を感じて頂いたり、お好きな湯温で入って頂けるようにしている。冷え性の方もおられ、身体の温まる入浴剤などを使用し、ゆっくり入浴して頂いている。	入浴は、10時から12時までの間と13時から19時までの間可能で、毎日入浴できる。就寝前の入浴希望があり、希望に添えるよう、入浴時間を遅くしている。順番や湯加減、好みの石鹸を使い、入浴剤の利用や季節の柚子湯、菖蒲湯など、利用者の希望に合わせて、ゆったりと入浴できるように支援している。歌を歌ったり、おしゃべりをしたり、時には仲の良い人と一緒に入浴する利用者もいる。入浴したくない人には無理強いしないで、時間を変えたり、職員の交代、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて、清拭や足浴、シャワー浴、部分浴など個々に応じた入浴の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明は好みを伺い安心して眠られる明るさにしている。テレビがお好きな利用者様の要望から、夜ずっとつけておき、目覚めたときにいつでも見て頂けるようにしている。使い慣れたアンカを持ってこられている利用者様もおられる。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬マニュアルに沿って服薬支援している。薬が変わった時には薬局から薬情報が届き把握している。錠剤がのみにくくなられた方には薬剤師に相談し医師と連携を取り見直しをしたり、服薬方法の指導を受けて必要な薬を飲めるよう支援に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理がお好きな利用者様は夕食の味噌汁の味見やよもぎ餅、おはぎ等おやつ作りを中心になってして頂いている。銀行の事務をしておられた利用者様は几帳面に毎食時のボードのメニュー書きや水分量の計算などをしてくださっている。編み物が得意な利用者様はひざ掛けやたわしなどを編まれ、職員に編み物を教えて下さっている。	掃除(塵取りと箒を使う、掃除機を使う)や洗濯物をたたむ、洗濯物を収納する、カーテンの開閉、花を生ける、花瓶の水を換える、金魚の餌やり、プランターに野菜や花の苗植え、水やり、草取、ピーマンの収穫、お膳拭き、台拭き、食器洗い、菓子づくりの「彩菓の会」、雑巾を縫う、客へのお茶出し、客への挨拶、編物、縫い物、ボタン付け、細川たかしショーで代表して花束贈呈、、テレビやDVDの鑑賞、CDを聞く、本や雑誌を読む、数字を読みあげる、算盤を使う、折り紙、ちぎり絵、ぬり絵、習字、皮細工、短歌や俳句、川柳を詠む「文芸の会」、メモを取る、絵手紙教室、歌の会、カラオケ、壁画づくり、ことわざかるた、トランプ、正月昔遊び(けん玉、お手玉、羽子板)、ボトルフラワーづくり、カレンダーづくり、風船バレー、ボール遊び、ヨガの会、散歩の会、ラジオ体操、リハビリ体操、テレビ体操、口腔体操、脳トレ(漢字、計算、なぞなぞ、しりとり、色合わせ)、季節行事(初詣、節分、敬老会、運動会、クリスマス)に参加、ボランティアとの交流、カフェひまりで来客者と交流、移動図書館の利用、お出かけの会、買物ツアー、地域行事(納涼祭り、どんど焼き、厚陽ふれあい文化祭、古式行事、御大師様参り、相撲大会等)、利用者一人ひとりの「～したい」ことに合わせた活躍できる場面をつくり、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	梅・紫陽花・つつじ・ひまわり・コスモス等季節の花を見に出かけている。地域の行事はご案内があるため一緒に出かけたり、敬老会もご家族に代わり職員が同伴し参加されている。取引先業者主催の「幸せの集い」に出席し、296名の参加がある中、代表で舞台上がり花束進呈の役割をこなされた後、細川たかしのコンサートを楽しまれた。	散歩の会をつくり、「目指せ1000歩」を掲げて、カフェひまりの庭や事業所周辺の散歩、外気浴、日光浴をしている。お出かけの会として、季節の花見(梅、バラ、紫陽花、つつじ、ひまわり、コスモスなど)や地域の行事(どんど焼き、納涼祭、ふれあい文化祭など)、地元商店街の散歩に出かけ、買物ツアーとして近くのスーパーマーケットに出かけている。ドライブ(東行庵、花の海)、初詣、御大師様参り、コンサートにでかけている。家族の協力を得て、買物や外出、外食、外泊、墓参り、寺参り、馴染みの美容院の利用、法事、結婚式に出かけるなど、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かり管理している。お出かけや買い物時には一緒に買い物に行きお好きなものをご自分で選ばれ支払いもご自分で出来るように支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1階の工房で書かれた絵手紙は、職員が横につきご家族の住所・宛名も書いていただき、天気の良い日には散歩がてらポストに投函しに行っている。ご家族から届いたはがきをいつも見える場所に置いている。携帯電話を持たれている利用者様はご家族といつでも連絡が取れるように職員が定期的に充電をしている。操作方法がわからないときは一緒に行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>エレベーターを降りると玄関ロビーがあり、ご家族や面会の方とくつろいで頂いている。廊下には絵画がかけてあり文化的な雰囲気も感じて頂いている。季節の花を飾り自然を感じて頂けるようにしている。リビングには大きな窓があり明るい雰囲気となっている。廊下には天窗からも日の光が入る。北ユニットには和室があり、足を伸ばしてくつろげる空間がある。</p>	<p>ユニットは2階にあるが、1階は機能訓練のための施設(レッドコード)と工房(パソコンや絵手紙を書く、本を読む、皮細工、菓子を作るなど)、「カフェひまり」があり、併設の看護小規模多機能型ホームの利用者と一緒に利用している。エレベーターで2階に上がると、両ユニットの玄関ロビーがあり、大きなテーブルと椅子が置いてあり、家族や来訪者と一緒にくつろげる場となっている。ユニットの入口には職員の写真と名前がボードに掲示してある。リビングは広く、大きなガラス窓からの自然光で明るい。窓からは、周辺の住宅や桜の樹木が見えて、季節を感じる事ができる。室内には机や椅子を配置し、季節の花やおしゃれで落ち着いた調度品が飾ってある。北ユニットには和室があり、足を伸ばしてゆったりとくつろげるようになっている。利用者は算盤を使って、2人で読上げ算をしたり、川柳を創るなど、思い思いのしたいことをして楽しんでいる。壁面には壁掛け型のテレビや絵画が飾ってある。リビングの奥にはキッチンがあり、炊飯の匂いや盛り付けの様子が見え、生活感を感じることができる。温度や湿度、換気に配慮して居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	
54		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングには4人掛け、2人掛けのテーブルがあり気の合う方と座って過ごせるようになっている。南のベランダからはカフェの庭が眺められ、春には満開の桜が楽しむことができる。北ユニットベランダからは子供の頃シイの実拾いをして遊んだ神社や、毎日行っていたスーパーを見ながら楽しそうに話をされている。厚狭の花火も良く見えみんなで鑑賞している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご家族が環境づくりをして下さっている。ご家族の写真やおきにいりの椅子、ご主人の仏壇を持って来られている方もおられる。ベッドの方向も好みを伺ってご本人がくつろげるように工夫している。	居室の入口には、利用者の名前と七宝焼きの作品を飾って自分の居室がわかりやすいように工夫している。利用者は寝具や衣装ケース、椅子、ソファ、クッション、時計、デジタル時計、テレビ、仏壇、雑誌、整容道具など、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族や自分の写真、カレンダー、手づくりリース、絵手紙を飾り、事業所と実家を結ぶ周辺の馴染みの場所を記した地図を大判用紙に作成して掲示し、本人が安心して居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっている。両ユニットを自由に行き来されている。歩けなくなるといけないからと毎日廊下を往復されたり、車椅子を自分で操作して動きたいと思われている方には操作方法を繰り返しお伝えし、時間がかかっても自分でできた喜びを感じて頂けるようにしている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム彩花

作成日: 令和 元 年 7 月 30 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	前年度開設事業所ということもあり、介護経験の少ない職員もいることで、急変時の対応や応急手当等の初期対応が的確に出来るか不安がある。	職員全員が事故発生時の対応を理解し、迅速かつ的確に動けるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員全員が法人の応急手当研修を受講する。 ・グループホーム独自で誤嚥発見からAED使用の流れを個別に訓練し身につける。 ・事故発生時の対応や事故発生予防マニュアルを基に、不安がある職員には繰り返し指導をしていき全員が同じレベルになるようにする。 	1年
2	7	身体拘束をしないケアを正しく理解でき、日々の支援に活かせるようにしていく。	職員全員が身体拘束の対象となる具体的な行為を正しく理解し、身体拘束ゼロの支援が出来る。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホーム独自の勉強会を実施し身体拘束について学ぶ ・インシデント・アクシデント報告を回覧し、職員全員で危機管理意識を持つことで身体拘束に繋がる行為がないようにする。 ・スピーチロックと思われる言葉がけが聞かれた場合は、職員間で注意し合っていく。 ・法人の接遇研修に参加する。 	1年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。